

令和6年度 学校経営計画・学校評価			□4月4日提出	□10月3日提出	■3月14日提出	学校番号	45	宿毛	高等学校	課程	定
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○基礎学力を身につけ、将来の夢や希望を実現するために地道に努力することができる生徒 ○職業観や勤労観を持ち、仕事と学業を両立することができる生徒 ○ルールやマナーを守り、他者を思いやって行動することができる生徒 ○学校生活を大切にし、前向きに活動することができる生徒 ○様々な活動や他者とのかわりを通して、社会的な自立を目指すことができる生徒			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○「働きながら学ぶ」ことができる普通科の夜間部定時制高校で、就労者に配慮した時間帯で授業を行います。在学期間は4年間ですが、大方高校通信制との併修制度利用により3年間での卒業も可能です。 ○理解度に応じた丁寧な指導(個別最適な学び)を行い、基礎・基本を重視した授業を展開します。 ○総合的な探究の時間での多様な活動を通して、自己肯定感を育み、社会的自立について追求します。 ○一人一人の適性に応じた進路実現に向けて、望ましいキャリア観を育む指導を行います。 ○校内外の活動を通して、豊かな人間性を育むとともに、多様な他者と協働する力を育成します。また、生徒会主導の学校行事で、生徒の自主性を引き出す取組を行います。							
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の定着を図ります。 ○正しい判断基準や規範意識をもち、主体的・自律的な態度で行動する力を育成します。 ○礼儀やマナーを大切にし、社会人として必要なコミュニケーション能力を育成します。 ○互いの人格を尊重し、相手の立場で物事を考え、他者と協働する力を育成します。 ○探究的な学習や生徒会活動などを通じて、自己有用感の涵養を図り、社会に貢献する態度を育成します。			【社会性の育成】(評価)【 A 】 全ての項目において目標を上回ることができた。探究活動や主体的・協働的な活動で得た知見をもとに、他者理解を深め、自ら考え、まとめ、表現する力を育成することが大切である。また、自らの将来に夢や目的を持ち、困難に立ち向かい粘り強くあきらめない姿勢を育成することも重要である。							
スクール・ポリシー				【チーム学校】(評価)【 A 】 「学校生活は充実している」と考える生徒の割合は向上した。個別支援が必要な生徒がほとんどで、一人一人の生徒に複数の教員が寄り添い、外部機関とも協力するなど組織として対応していく必要がある。その土台として、何でも話し合え協力できる風通しの良い職場環境を整えることが大切である。不祥事防止対策のための取組は継続してほしい。							

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○「学校の授業は、よく理解できている」 現状(R5年2回):75% 目標:80%以上 ○「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」 現状(R5年2回):75% 目標:80%以上	○基礎学力定着のため学校オリジナルの基礎学力検定を実施 ○授業の中で考えをまとめたり、協議したり、発表する機会を設定 ○クロームブック、「すらら」などICTを有効活用した個別最適な学びの充実 ○家庭との欠席連絡等の徹底	B ○「学校の授業は、よく理解できている」92%(R6年1回) 昨年より向上 ○「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」69%(R6年1回) 目標を達成できていない	○基礎学力検定(学校オリジナル)の実施と事前・事後指導の継続 ○個別最適な学びのため「すらら」を活用 ○クロームブックなどICTを有効活用 ○探究活動の充実 ○本人および家庭との欠席連絡等の徹底	A ○「学校の授業は、よく理解できている」目標80%→83% ※目標を達成できた。 ○「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」目標80%→83% ※目標を達成できた。	○多様な学習歴を持つ生徒への対応として、個別最適な学びをいっそう充実させる。 ○すべての生徒に分かる授業を工夫する。 ○クロームブック、「すらら」などICTを有効に活用する。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」 現状(R5年2回):92% 目標:80%以上 ○「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 現状(R5年2回):58% 目標:70%以上	○仲間づくり活動、生徒会活動の充実 ○生活体験発表会への参加 ○遠足など各種体験活動の充実 ○総合的な探究の時間、進路LHで4年間を見通した進路探究 ○キャリアパスポートの有効活用	B ○「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」92%(R6年1回) 昨年同様、目標を達成 ○「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」69%(R6年1回) 昨年より向上	○校内探究発表会の実施 ○県生活体験発表会へのリモート参加 ○各種学校行事の充実(生徒会活動・遠足・陶芸教室等) ○キャリアパスポート、個別面談、進路LHの実施	A ○「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」目標80%→100% ※目標を達成できた。 ○「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」目標70%→75% ※目標を達成できた。	○各種体験活動の充実を図り、「コミュニケーション力」「やりぬく力」を育成する。 ○自らの将来に夢や目的をもてるように、総合的な探究の時間の取組を継続し、早い時期から進路意識を育む。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」 現状:1% 目標:60%以上 ○地域・関係機関との連携回数 現状(R5年2回):4回 目標:4回以上	○総合的な探究の時間で地域探究 ○地域とのかかわりが持てる環境美化活動(プランター配布)の実施 ○校外清掃ボランティアの実施	C ○「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」46%(R6年1回) 社会とのかかわりが薄い ○地域・関係機関との連携回数 R6年9月現在:3回	○総合的な探究の時間で地域探究、協働的な学びを実施 ○地域とのかかわりが持てる環境美化活動(プランター配布)の実施 ○校外清掃ボランティアの実施	B ○「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」目標60%→75% ※目標を達成できた。 ○地域・関係機関との連携回数 目標4回以上→5回 ※目標を達成できた。	○地域とのかかわりがもてる環境美化活動を継続する。 ○総合的な探究の時間における地域探究を充実させる。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けける力の育成	○「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」 現状(R5年2回):88% 目標:70%以上 ○「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」 現状:1% 目標:60%以上	○総合的な探究の時間を核とし、各教科での学びを結び付け、言語能力や情報活用能力を育成 ○各教科の学びの中で社会の出来事に関する情報を収集し関心を高める	B ○「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」69%(R6年1回) 昨年より低下 ○「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」69%(R6年1回)	○総合的な探究の時間や授業の中でグループや個人で探究する活動を設定し、調べ、考えたことを表現する機会を継続して設ける。 ○クロームブックの有効活用	A ○「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったりする機会がある」目標70%→91% ※目標を達成できた。 ○「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」目標60%→75% ※目標を達成できた。	○社会の出来事に関する情報を収集し、調べ、課題を見出し、自分の考えを表現する力を育む。 ○生徒生活体験発表会への参加を継続する。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○「働きながら学べる場」「学び直しの場」として、多様な学習歴を持つ生徒や生活環境にある生徒を支援する。 ○社会的自立、個に応じた就労を支援する。	○「学校生活は充実している」 現状(R5年2回):75% 目標:70%以上 ○「将来の夢や目標を持っている」 現状(R5年2回):75% 目標:70%以上	○生徒情報の共有、相談体制の充実 ○SCやSSWを交えた生徒支援会 ○健康面談や保護者面談の実施 ○外部機関との連携 ○特別支援研修など校内研修の充実 ○個に応じた就労支援 ○ハローワークや就職アドバイザーの紹介	B ○「学校生活は充実している」77%(R6年1回) 昨年とほぼ同様 ○「将来の夢や目標を持っている」54%(R6年1回) 昨年より低下	○情報共有体制のさらなる充実 ○学校行事(体験活動・仲間づくり活動・生徒会活動)の充実 ○QU、学校生活アンケートの実施 ○SC、SSW、外部関係機関との連携 ○ハローワーク、就職アドバイザーとの連携 ○進路LH、進路探究の充実	A ○「学校生活は充実している」目標70%→92% ※目標を達成できた。 ○「将来の夢や目標を持っている」目標70%→83% ※目標を達成できた。	○生徒情報の共有と相談体制を強化する。 ○SC、SSW、外部関係機関との連携を図る。 ○はたサポートステーションと連携し個に応じた就労支援を推進する。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	目標 ○校内研修の実施回数:6回 ○不祥事防止委員会の実施回数:6回 ○風通しの良い職場環境づくり	○不祥事事案などの情報共有の徹底 ○個人情報記載された文書の発送や事務処理は2人以上で確認 ○何でも話し合える職場環境づくり	B ○校内研修の実施回数:3回 ○不祥事防止委員会の実施回数:3回 ハラスメント防止、個人情報の取扱い 懲戒処分の方針の理解 ○風通しの良い職場環境づくり	○不祥事事案などの情報共有の徹底 ○個人情報記載された文書の発送や事務処理は2人以上で確認 ○何でも話し合える職場環境づくり	A ○校内研修の実施回数:6回 ○不祥事防止委員会の実施回数:6回 飲酒運転防止、不祥事が与える影響 教育長による緊急メッセージ ○風通しの良い職場環境づくり ※目標を達成できた。	○不祥事事案などの情報共有の徹底を継続する。 ○学期に1回以上、不祥事防止の研修を実施する。 ○風通しのよい職場環境を整える。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○年休、特別休暇等の取得奨励 ○業務負担の軽減と効率化	目標 ○年休、特別休暇等の取得率の向上 ○業務内容を見直し、少人数や夜間勤務による負担を軽減	○閉庁日の設定(夏季休業中に3日間) ○勤務セレクトの有効活用 ○健康管理など、日々の声掛け ○ストレスチェックの実施 ○業務の見直し ○各種会議のペーパーレス化	B ○年休、特別休暇等の取得率の向上 →夏期休暇・夏の勤務セレクトとも有効活用できた。 ○業務内容を見直し、少人数や夜間勤務による負担を軽減 →業務の分担制、複数人担当制を実施 →会議のペーパーレス化を実現	○ストレスのない職場環境を構築 ○健康管理など、日々の声掛け ○年休等の有効活用について伝達	A ○年休、特別休暇等の取得率の向上 ※夏期休暇・夏の勤務セレクトとも有効活用できた。 ○業務内容を見直し、少人数や夜間勤務による負担を軽減 ※担当任せにせず、教員全体で協力することで負担を軽減できた。	○分掌、部活動顧問などを複数担当制にする。 ○相談、情報共有体制を強化する。 ○業務内容の見直しを行う。 ○健康管理の徹底と休暇取得率の向上を図る。